

CITIZEN

2020年度（2021年3月期）  
第2四半期決算説明会

---

シチズン時計株式会社  
2020年11月12日

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。なお、億円未満は切り捨てになっています。

広報・IR担当の古川です。

本日はご多用のところ、当社第2四半期決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

## ■ 2020年度上期実績 減収減益

時計事業：1Q比で2Qは減収幅縮小

工作機械事業：受注は底打ちし緩やかに回復

## ■ 2020年度通期業績予想

大きな影響を及ぼす経済活動の制限等が拡大しない前提で、  
発表日現在において入手可能な情報に基づき算定

主力の時計事業、工作機械事業は前年比大幅減の見通し

## ■ 2020年度配当予想

5.0円（中間 2.5円、期末 2.5円）

それでは、今回の決算の主なポイントについて説明させていただきます。

第2四半期累計決算は、大幅な減収減益となりましたが、時計事業は第1四半期、前年同期比64%の減収から、第2四半期は前年同期比33%減と減収幅が縮小しました。また、工作機械事業についても、売上は伸び悩みましたが、受注は第1四半期で底打ちし、回復基調になっています。

また、2020年度業績予想につきましては、

下期も新型コロナウイルス感染の状況は依然として不透明ですが、大きな影響を及ぼす経済活動の制限等が拡大しない前提で、現在において入手可能な情報に基づき業績予想を算定しました。

主力の時計事業、工作機械事業ともに回復基調にはあるものの、改善は緩やかにとどまる見込みです。

なお、配当予想につきましては、当期純損失を計上する見通しではありますが、手元流動性の確保及び株主還元方針を総合的に判断した結果、年間配当金5.0円を予定しております。

## 2020年度 上期連結業績概要

CITIZEN

| (単位：億円)          | 2019年度上期             |  | 2020年度上期             |  | 前年同期比  |      |
|------------------|----------------------|--|----------------------|--|--------|------|
|                  | 実績                   |  | 実績                   |  | 増減率    | 増減額  |
| 売上高              | 1,444                |  | 889                  |  | ▲38.4% | ▲554 |
| 営業利益             | 57                   |  | ▲82                  |  | -      | ▲139 |
| 営業利益率            | 4.0%                 |  | ▲9.3%                |  | -      | -    |
| 経常利益             | 58                   |  | ▲61                  |  | -      | ▲120 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 35                   |  | ▲215                 |  | -      | ▲251 |
| 為替レートの影響         | ¥109/USD<br>¥122/EUR |  | ¥107/USD<br>¥121/EUR |  | -      |      |

- 市場環境は徐々に回復傾向にあるものの、主力の時計事業を中心に減収
- 広告宣伝費を抑制するなど、140億円の販管費削減を実施
- 繰延税金資産の一部を取崩し、法人税等調整額107億円を計上

3

上期業績概要について、説明いたします。

売上高は889億円、前期比38.4%減と、主力の時計事業、工作機械事業共に大幅な減収となりました。

営業利益につきましては、広告宣伝費をはじめ経費を抑制し販管費を約140億円削減しましたが、主力事業の減収を補うには至らず、82億円の損失となり、経常利益は61億円の損失となりました。

また、繰延税金資産の取り崩しを行ったことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は、215億円の損失となりました。

## セグメント別業績推移

CITIZEN

| (単位：億円 / %：営業利益率) |           | 2019年度        | 2020年度          | 前年同期比  |      |
|-------------------|-----------|---------------|-----------------|--------|------|
| 売上高               |           | 上期            | 上期              | 増減率    | 増減額  |
|                   |           | 実績            | 実績              |        |      |
|                   | ■ 時計事業    | 723           | 381             | ▲47.3% | ▲342 |
|                   | ■ 工作機械事業  | 308           | 207             | ▲32.8% | ▲101 |
|                   | ■ デバイス事業  | 293           | 213             | ▲27.3% | ▲80  |
|                   | ■ 電子機器他事業 | 118           | 88              | ▲25.5% | ▲30  |
|                   | 合 計       | 1,444         | 889             | ▲38.4% | ▲554 |
| 営業利益              |           |               |                 |        |      |
|                   |           |               |                 |        |      |
|                   | ■ 時計事業    | 34<br>(4.8%)  | ▲53<br>(▲14.1%) | -      | ▲88  |
|                   | ■ 工作機械事業  | 45<br>(14.8%) | 5<br>(2.9%)     | ▲87.0% | ▲39  |
|                   | ■ デバイス事業  | 7<br>(2.6%)   | ▲10<br>(▲5.1%)  | -      | ▲18  |
|                   | ■ 電子機器他事業 | 0<br>(0.6%)   | ▲1<br>(▲2.1%)   | -      | ▲2   |
|                   | 消去又は全社    | ▲31           | ▲21             | -      | +9   |
|                   | 合 計       | 57<br>(4.0%)  | ▲82<br>(▲9.3%)  | -      | ▲139 |

4

続いて、セグメント別業績推移を説明いたします。

時計事業は、売上高は前期比47.3%減の381億円、53億円の営業損失となりました。

工作機械事業は、売上高は前期比32.8%減の207億円、営業利益は前期比87%減の5億円となりました。

デバイス事業は、売上高は前期比27.3%減の213億円、10億円の営業損失となりました。

電子機器他事業については、電子機器事業は健康機器が好調に推移し営業黒字になったものの、その他の事業の赤字により、売上高は前期比25.5%減の88億円、1億円の営業損失となりました。

## 2020年度 下期及び通期連結業績予想

CITIZEN

| (単位：億円)         | 2019年度実績             |                      | 2020年度予想             |                      | 前年同期比増減 |       |
|-----------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------|-------|
|                 | 下期                   | 通期                   | 下期                   | 通期                   | 下期      | 通期    |
| 売上高             | 1,341                | 2,785                | 1,130                | 2,020                | ▲ 211   | ▲ 765 |
| 営業利益            | 4                    | 61                   | ▲ 57                 | ▲ 140                | ▲ 61    | ▲ 201 |
| 営業利益率           | 0.3%                 | 2.2%                 | ▲5.1%                | ▲6.9%                | -       | -     |
| 経常利益            | 16                   | 75                   | ▲ 38                 | ▲ 100                | ▲ 54    | ▲ 175 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | ▲ 202                | ▲ 166                | ▲ 84                 | ▲ 300                | +118    | ▲ 134 |
| 為替レート           | ¥109/USD<br>¥120/EUR | ¥109/USD<br>¥121/EUR | ¥105/USD<br>¥125/EUR | ¥106/USD<br>¥123/EUR | -       | -     |

■ 減収幅は縮小傾向にあるものの、いずれの事業も減収の見込み

5

続きまして、2020年度の通期の連結業績予想です。

売上高は、前期比765億円減の2,020億円を見込んでいます。

また、営業利益は140億円の損失、経常利益は100億円の損失の見通しです。

当期純利益につきましては、繰延税金資産の取り崩しの他、特別損失などもあり、300億円の損失を見込んでいます。

なお、下期の為替レートは1USD=105円、1EUR=125円を前提としています。

## 2020年度 下期及び通期セグメント別業績予想

CITIZEN

|      |           | (単位：億円 / %：営業利益率) |                | 2019年度実績        |                  | 2020年度予想 |       | 前期比増減 |  |
|------|-----------|-------------------|----------------|-----------------|------------------|----------|-------|-------|--|
|      |           | 下期                | 通期             | 下期              | 通期               | 下期       | 通期    |       |  |
| 売上高  | ■ 時計事業    | 692               | 1,416          | 578             | 960              | ▲ 114    | ▲ 456 |       |  |
|      | ■ 工作機械事業  | 276               | 585            | 232             | 440              | ▲ 44     | ▲ 145 |       |  |
|      | ■ デバイス事業  | 265               | 559            | 231             | 445              | ▲ 34     | ▲ 114 |       |  |
|      | ■ 電子機器他事業 | 106               | 224            | 86              | 175              | ▲ 20     | ▲ 49  |       |  |
|      | 合計        | 1,341             | 2,785          | 1,130           | 2,020            | ▲ 211    | ▲ 765 |       |  |
| 営業利益 | ■ 時計事業    | 4<br>(0.7%)       | 39<br>(2.8%)   | ▲ 41<br>(▲7.1%) | ▲ 95<br>(▲9.9%)  | ▲ 45     | ▲ 134 |       |  |
|      | ■ 工作機械事業  | 26<br>(9.7%)      | 72<br>(12.4%)  | 5<br>(2.2%)     | 11<br>(2.5%)     | ▲ 21     | ▲ 61  |       |  |
|      | ■ デバイス事業  | 1<br>(0.7%)       | 9<br>(1.7%)    | ▲ 2<br>(▲0.9%)  | ▲ 13<br>(▲2.9%)  | ▲ 3      | ▲ 22  |       |  |
|      | ■ 電子機器他事業 | ▲ 2<br>(▲2.6%)    | ▲ 2<br>(▲1.0%) | 1<br>(2.1%)     | 0<br>(0.0%)      | +3       | +2    |       |  |
|      | 消去又は全社    | ▲ 26              | ▲ 57           | ▲ 21            | ▲ 43             | +5       | +14   |       |  |
|      | 合計        | 4<br>(0.3%)       | 61<br>(2.2%)   | ▲ 57<br>(▲5.1%) | ▲ 140<br>(▲6.9%) | ▲ 61     | ▲ 201 |       |  |

■ 時計事業：北米市場は実店舗閉店による流通在庫を勘案し慎重な見通し  
 ■ 工作機械事業：受注は緩やかに回復も、営業費用の増加に伴い営業利益は上期比横ばいの見通し

6

セグメント別の下期及び通期売上高、営業利益予想です。

主要3事業ともに減収減益の見通しになっています。

時計事業は、最大市場の北米において実店舗流通の閉鎖に伴う流通在庫の整理に時間を要する懸念があり、慎重な見方をしています。

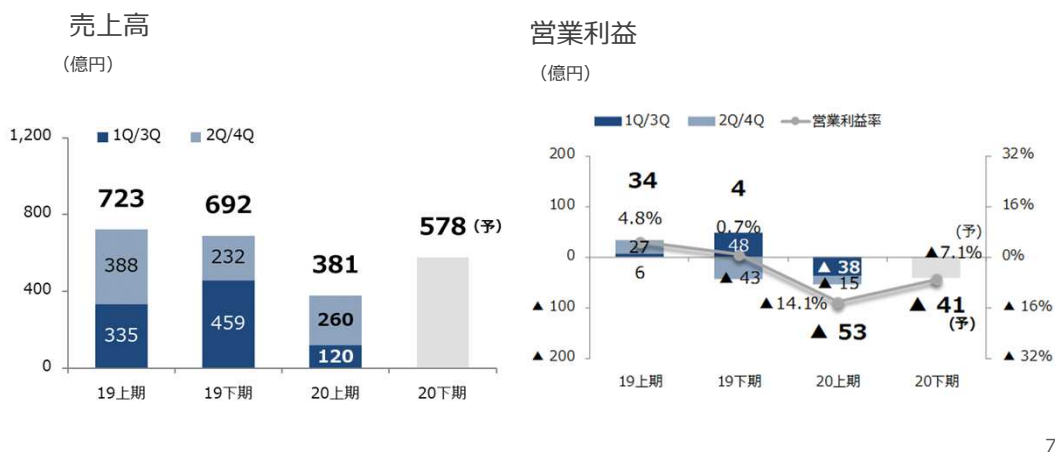
工作機械事業は、受注は緩やかに回復傾向にあるものの、生産の増加などによる費用の増加に伴い、営業利益は上期比横ばいの見込みです。

<完成品販売>

- 海外市場：営業再開に伴い徐々に回復したものの実店舗販売が低迷し、減収
- 国内市場：インバウンド需要の激減と消費意欲の減退を受け、減収

<ムーブメント販売>

- 回復の兆しが見られたものの世界的な消費の落ち込みを受け、減収



それでは、事業別の概況をご説明いたします。  
まず、時計事業です。

完成品販売は、各国で実店舗の営業が再開されると徐々に回復に転じましたが、主力の北米や国内の需要回復が弱く、減収となりました。

下期については、北米は先ほど申し上げた通り、流通在庫の調整がある他、トラベル流通の回復の目途が立たないこともあり、上期に対し小幅な改善にとどまる見込みであり、国内は内需が回復に向かうもののインバウンド需要相当額が減収となる見通しです。

欧州と中国・アジアは回復傾向が継続する見通しとなっています。

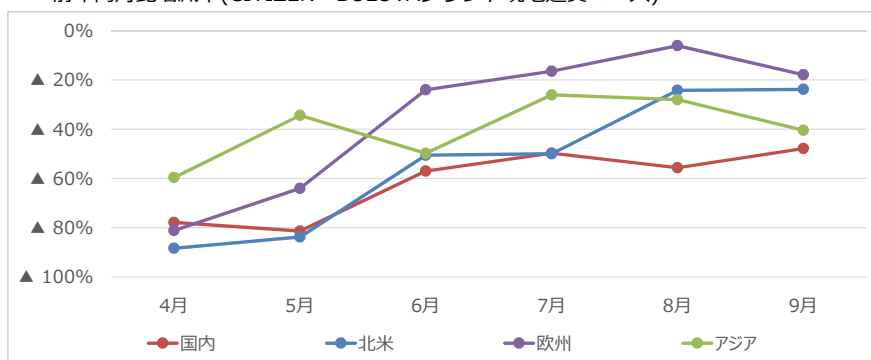
ムーブメント販売については、第2四半期から回復傾向にあるものの、依然、低い売上水準にとどまりました。機械式ムーブメントは比較的堅調なもの、アナログクォーツの需要回復が遅れています。

ただ直近では、付加価値品を中心にアナログクォーツの需要が動く兆しも見え始めており、下期は前年を上回る売上を見込んでいます。

生産の見通しに関しては、ムーブメント、完成品共に今期末まで大幅な減産を継続するため、減益要因のひとつになっています。ムーブメント在庫は7月以降、減少に転じており、期末までには適正水準に戻る見込みです。

また、上期では広告宣伝費を半減させましたが、下期はセルスルーを促進させ、流通在庫の健全化を図る目的もあり、一定の宣伝費を投入する予定です。

■ 前年同月比増減率(CITIZEN・BULOVAブランド現地通貨ベース)



■ 前年同期比増減率(CITIZEN・BULOVAブランド現地通貨ベース)

|       | 1Q   | 2Q   |                               |
|-------|------|------|-------------------------------|
| ● 国内  | ▲72% | ▲51% | 店舗営業の再開を受け緩やかに回復し、下げ幅は縮小傾向    |
| ● 北米  | ▲73% | ▲30% | EC販売が下支えとなるも、先行き不透明感が深まる      |
| ● 欧州  | ▲57% | ▲15% | 先行き不透明感はある一方で、ドイツなどが堅調さを維持    |
| ● アジア | ▲48% | ▲33% | 前年の大型受注からの反動減により停滞するも、回復傾向で推移 |

地域別の上期販売状況について、説明いたします。

国内は赤の線ですが、インバウンド需要の構成比が高いこともあり、比較的回復が遅くなっています。

北米は水色の線です。店舗再開後のセルインが進んだことと、EC販売が好調に推移したため、8月以降、回復しました。

欧州は紫の線ですが、6月以降、ドイツ、イタリアなどを中心に大幅な回復をみせました。

アジアは、中国が牽引役となり、比較的堅調な回復となりました。緑の線を見ていただくと、9月に減収率が悪化していますが、これは、昨年オンラインイベント向の出荷が9月にあったことによるものです。今年は10月にセルインしているため、中国の10月単月売上は前年比7割増となっており、下期は増収を見込んでいます。



## ムーブメント事業の再構築

- アナログクォーツムーブメント  
生産規模の適正化を実施
- 機械式ムーブメント  
製造の合理化・自動化推進によるコスト削減を進め、堅調な需要に対応

## EC販売の強化

- 地域別EC販売比率  
中国：2Q 7割弱  
北米：2Q 2割半ば  
国内：2Q 1割半ば
- 米国Newsweekベストオンラインショップス  
2021 腕時計部門受賞

※ベストオンラインショップス2021  
米国のNewsweek社と世界的データリサーチ会社Statista社が、全米の39  
カテゴリー1,000店のオンラインショップを対象にランキングしたもの



9

次に、時計事業の収益改善に向けた取組みの進捗について、ご説明いたします。

ムーブメント事業の再構築については、縮小傾向にある需要に市場に対応すべく、生産規模の適正化を進めていることに加え、機械式ムーブメントの製造の合理化・自動化に取り組んでおり、今後も安定した需要が見込める機械式ムーブメントで、着実に利益を創出できる体制を整えていきます。

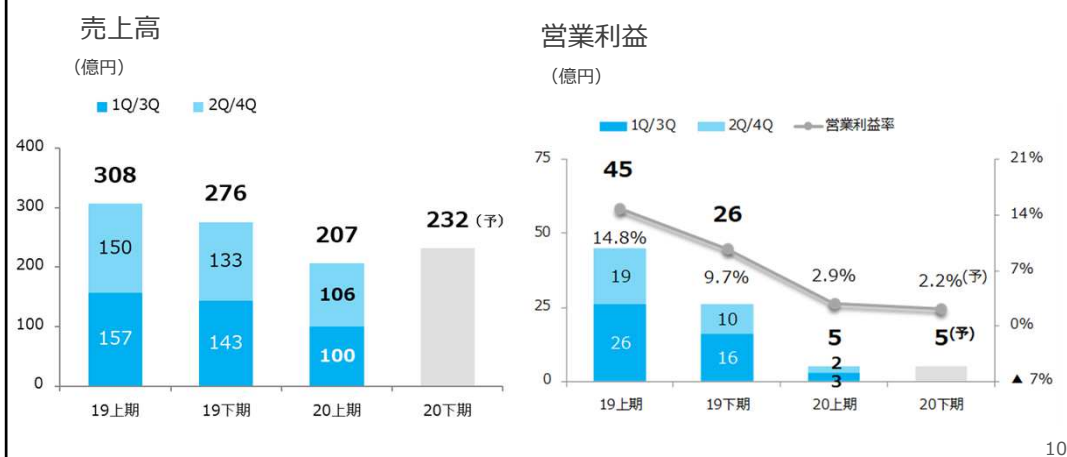
そして、さらに重要性を増すEC販売においては、各地域の特徴をとらえた効果的な展開を図っています。

中国市場では、若者に向けた製品投入やオンラインイベント、ライブストリームを活用した販売を行っています。

北米市場では、ECチャンネルでの販売拡充に加え、自社の直販ECサイトの強化を図っており、売上の重要な一角を担うようになりつつあります。

トピックスになりますが、当社の米国販社が運営するオンラインショップがベストオンラインショップス2021の腕時計部門で1位を獲得しました。

- 国内市場：全体的に設備投資需要が落ち込み減収
- 海外市場：中国市場が回復継続の一方で、欧州、米国、他アジアが低迷し減収



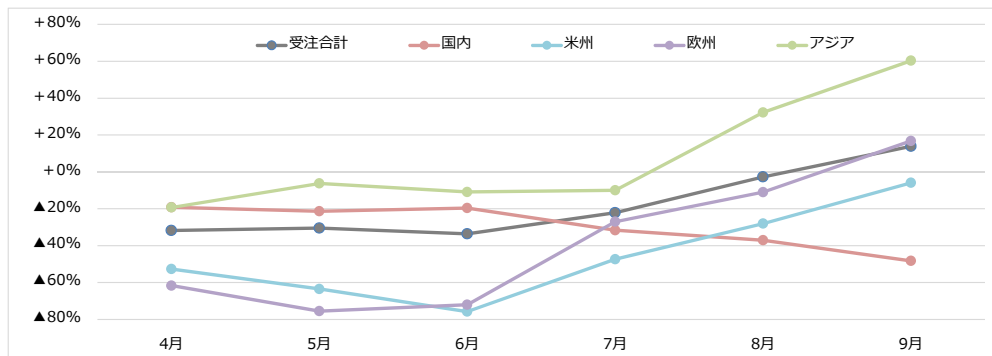
工作機械事業についてご説明いたします。

国内は、自動車関連をはじめ全体的な設備投資に慎重な姿勢が強く、減収となりました。

海外は、中国市場でIT関連等が好調に推移するなど回復傾向を維持する一方で、欧州、米国については、第2四半期から受注は回復に転じたものの、売上は伸び悩み、減収となりました。

下期については、受注は第1四半期で底打ちしたと見ていますが、回復のペースは緩やかに進む見通しです。売上が上期より増えるものの、生産の増加や営業活動の活発化により費用増が見込まれることから、上期並みの営業利益にとどまる見通しとしております。

■ 前年同月比増減率(3カ月移動平均受注台数)



■ 前年同期比増減率(3カ月移動平均受注台数)

|        | 1Q   | 2Q   |                                 |
|--------|------|------|---------------------------------|
| ● 受注合計 | ▲32% | ▲5%  | 新型コロナウイルスの感染拡大から1Qは低迷。2Q以降は回復基調 |
| ● 国内   | ▲20% | ▲39% | 自動車関連に動きはあるものの設備投資に対し慎重姿勢が継続    |
| ● 米州   | ▲63% | ▲26% | 医療市場が低迷していたものの、2Q以降はマイナス幅が縮小    |
| ● 欧州   | ▲70% | ▲8%  | 2Q以降は主に医療関連が堅調に推移               |
| ● アジア  | ▲13% | +24% | 中国において主にIT関連が堅調に推移              |

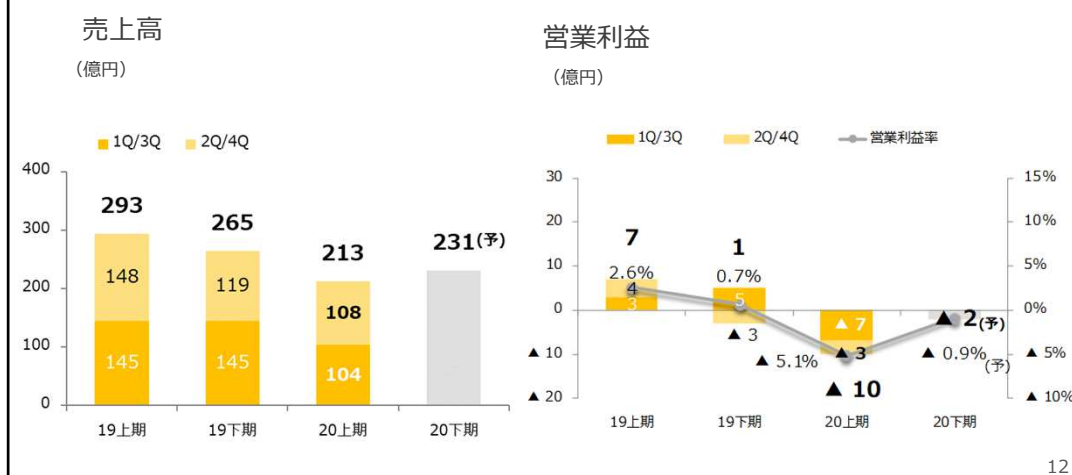
続いて、地域別の受注状況についてご説明いたします。

このグラフは3カ月移動平均の月ごとの受注台数推移を前年同月比増減率で示したものです。

概ね第1四半期を底に上昇に転じており、海外は、北米、欧州いずれも減少幅が縮小しており、アジアにおいては、中国におけるIT関連の伸長により、前年同期を上回る受注台数となっています。

国内は第2四半期まで設備投資に様子見姿勢がみられましたが、自動車関連の生産復調などもあり、第3四半期からは徐々に受注が回復に向かう見通しです。

- 精密加工部品：自動車部品は市場全体が落ち込む中、欧米向けが復調。スイッチはスマートフォン向けの販売が振るわず、減収
- オプトデバイス：照明向け、車載向けLEDの販売低迷により、減収



最後にデバイス事業についてご説明いたします。

精密加工部品の内、自動車部品は第1四半期においては新車販売台数の落ち込みを受け、売上が低迷しましたが、第2四半期以降、欧米向けを中心に売上が回復に転じており、下期は前年比で若干の増収の見込みです。スイッチは、スマートフォン向けの販売不振により、減収となりましたが、足元の受注は増加傾向にあります。オプトデバイスの内、照明向けLEDは欧米市場や中国市場の需要減退により減収となったほか、車載向けLEDが大きく落ち込み減収となりました。オプトデバイスは下期も売上が伸び悩む見通しとなっています。その他部品の内、水晶デバイスは通信機器向け需要の増加を受け増収となりました。

以上で説明を終わります。

**CITIZEN**

## 貸借対照表

CITIZEN

|            | 2020年   |       | 前年度<br>末比<br>増減額 |      | 2020年        |         | 前年度<br>末比<br>増減額 |        |
|------------|---------|-------|------------------|------|--------------|---------|------------------|--------|
|            | (単位：億円) | 3月末   |                  |      | 2020年<br>9月末 | (単位：億円) |                  | 3月末    |
| 流動資産       |         | 2,356 | 2,476            | +119 | 負債           | 1,387   | 1,598            | +210   |
| 現金及び<br>預金 |         | 801   | 996              | +195 | 有利子<br>負債    | 551     | 892              | +341 ② |
| 棚卸資産       |         | 1,011 | 1,016            | +4   |              |         |                  |        |
| ① 固定資産     |         | 1,339 | 1,215            | ▲124 | 純資産          | 2,307   | 2,093            | ▲214   |
| 有形固定<br>資産 |         | 785   | 772              | ▲12  | 株主資本         | 2,201   | 1,981            | ▲220   |
| 投資有価証券     |         | 334   | 317              | ▲17  | 為替換算調整勘定     | ▲10     | ▲16              | ▲5     |
| 資産合計       |         | 3,695 | 3,691            | ▲4   | 負債・純資産<br>合計 | 3,695   | 3,691            | ▲4     |

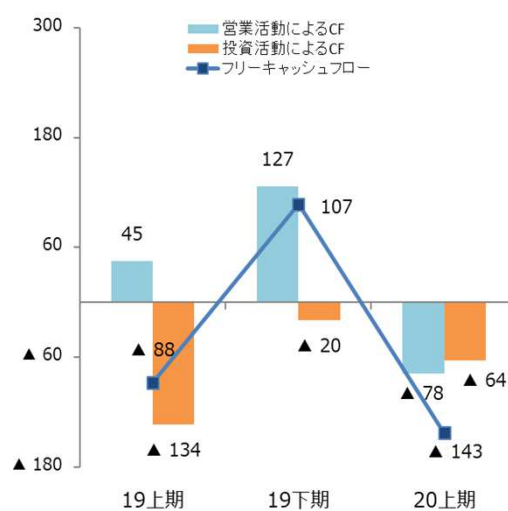
① 回収可能性を慎重に検討した結果、繰延税金資産(固定資産)を取崩し

② 手元流動性の確保のため、借入を実施

# キャッシュフロー計算書

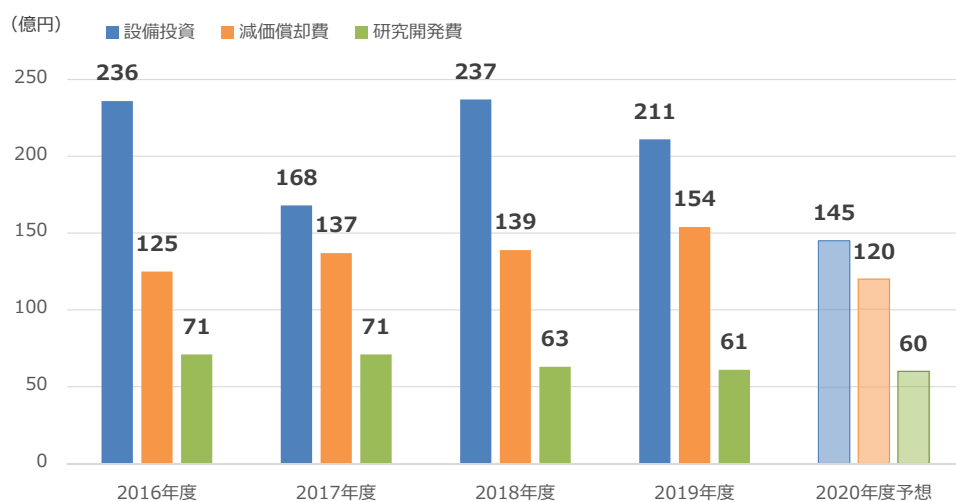
CITIZEN

|                 | 19上期  | 20上期  | 前年<br>同期比<br>増減額 |
|-----------------|-------|-------|------------------|
| (単位：億円)         |       |       |                  |
| 営業活動によるCF       | 45    | ▲ 78  | ▲ 124            |
| 投資活動によるCF       | ▲ 134 | ▲ 64  | +70              |
| フリーキャッシュフロー     | ▲ 88  | ▲ 143 | ▲ 54             |
| 財務活動によるCF       | ▲ 56  | 333   | +390             |
| 現金及び現金<br>同等物残高 | 686   | 976   | +289             |



## 設備投資・減価償却費・研究開発費

CITIZEN



- 設備投資は優先度と重要度の高い案件に絞り込み  
 時計事業：生産合理化・自動化体制の構築  
 工作機械事業：中国新工場建設を始めとした生産能力増強